

住宅用断熱材シェア No.1 のグラスウールが、地球のため、皆のためにできること。

グラスウールアクション 2030 を策定

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた新たな取り組みがはじまります。

我が国における硝子繊維工業の健全なる発展を目指して組織された硝子繊維協会（所在地:東京都新宿区 会長:松永 隆延）は、社会の省エネ意識の高まりに合わせ、高性能グラスウールと正しい施工法の普及に取り組んでまいりました。このたび、政府が宣言した「2050年カーボンニュートラル」を受け、高性能グラスウールの普及推進により快適・健康な環境づくりを通して持続可能な循環型社会に貢献するための新たな取り組み「グラスウールアクション 2030」を策定いたしました。

■グラスウールとは？

グラスウールは、ガラスを高温で溶かしミクロン（1000分の1ミリ）単位の細い繊維を綿状にしたものです。リサイクルガラスを主成分とし、耐熱性、不燃性、耐久性や繊維がもつ柔軟性をあわせもった素材として、さまざまな分野でその活用範囲を広げてきました。特に断熱性に優れており、住宅、ビル建築、設備機器をはじめ、自動車向けなど多岐にわたり、幅広い用途で快適環境の創造や省エネルギーに貢献しています。

グラスウール断熱材商品イメージ



■グラスウールを取り巻く市場環境

- [1] 2050年カーボンニュートラルに向けた新築住宅・建築物における省エネ化・高断熱化の推進
- [2] 既存住宅における高断熱化の停滞
- [3] 炭素の固定貯蔵化を目的とした一般建築物の木造化の推進
- [4] 工場部門・運輸部門の省エネ化推進
- [5] 少子高齢化、人口減少、世帯数減少
- [6] 大工等の建築関連技能者不足
- [7] 建築分野におけるDX化の推進（BIM/Building Information Modeling など）

■グラスウールアクション2030について

このような背景のもと、「グラスウールの普及推進により快適・健康な環境づくりを通して持続可能な循環型社会に貢献する」ことをビジョンとして、「グラスウールアクション2030」を策定いたしました。

アクションプランでは、国連の「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030年アジェンダ」であるSDGs達成に貢献すべく、我々を取り巻く市場環境を考慮し、グラスウールにおいて解決できる課題・解決すべき課題を洗い出し、解決に向けた実施項目および検討項目を策定し、出来る限り定量評価が可能な指標を示し、継続的にPDCAを繰り返すことにより目標の達成を目指します。



■グラスウール 2030 アクションプラン

- [1] 省エネ基準を超えるレベルの高性能グラスウールの普及
 - ・グラスウールの PR ツールの充実（断熱性以外の例えば吸音性などの長所を含む）
 - ・多様な工法に対するグラスウールの対応方法の検討
- [2] ZEH・LCCM など省エネ・高断熱住宅の推進（新築・既築）
 - ・住宅性能表示の断熱等性能等級 5 以上、等級 6,7 の推進
- [3] 一般建築物・産業分野の省エネ化・断熱化の推進
- [4] [1]～[3]のための PR ツールの作成・発信
 - ・各断熱水準の住宅のメリット発信（Energy Benefit・Non Energy Benefit）
 - ・国の推進策への協力
- [5] 正しい施工法の普及活動の継続
 - ・断熱施工講習会の推進
 - ・断熱施工の簡易化につながる GWS 工法の普及活動の推進
 - ・断熱施工マニュアルの充実（高断熱対応など）
- [6] 大工等の建築関連技能者不足対策への協力
 - ・「建設技能者の能力評価」へ断熱工事・断熱施工を位置づけることを目指して
 - 「充填断熱マイスター認定制度」を活用した技術者養成の推進
- [7] リサイクル対応
 - ・太陽光発電パネル、自動車由来の廃ガラスの利用検討

以上

本リリースに関するお問い合わせ先

硝子繊維協会 広報担当： 伊藤 文和

TEL.03-5937-5763 Email. ito@glass-fiber.net